

在キューバ日本国大使館講演

# キューバは今

## —日本外交の現場から

特命全権大使 佐藤博史氏

# 2014年5月9日金曜日

## 2-301教室 13:20開演 / 13:30講演



カリブ海に浮かぶキューバはその美しさゆえに「アンティルの真珠」とも呼ばれ、大航海時代に本国スペインの交通と貿易の要衝として栄え、バロック様式の建築物が立ち並ぶ都ハバナ旧市街は植民地時代の雰囲気の色濃く残す。

キューバの国父ホセ・マルティによるスペインからの独立の闘いをへて、1898年の「米西戦争」を契機に独立を達成、のちに米国資本が進出するまで砂糖産業は繁栄を享受した。

そして、1953年7月26日のモンカダ兵営襲撃——。カリブ海の天空のように大らかなキューバの民は「チャチャヤのリズムにのせて革命をやった」。

1614年7月にスペインに向かう支倉常長慶長遣欧使節一行がハバナに寄港、1890年代に日本人がキューバに移住、1929年に日本と国交が開かれ、1961年に通商協定が締結されたことでも知られる。

「カリブ海の赤い星」として注目されている社会主義国、魅惑の狂想キューバの今日の姿をあますところなく語ります。